

## 人と関わりたくて

副院長 三谷 和子



2017年4月から竹丘病院に勤務しております三谷です。専門は神経内科です。出身は島根県大田市、2007年世界遺産に登録された石見銀山がある町です。京都の大学を卒業後、国家公務員となり東京に出てきました。山が見えないこと、冬の空が青いこと(山陰の冬空は灰色)に驚きました。4年間働いた後、人と直接関わる仕事がしたくなり、医学部に入り直しました。神経内科を選んだのも、人と深く関われる診療科だと思ったからです。

板橋区にある東京都老人医療センター(現東京都健康長寿医療研究センター)に勤務後、2006年多摩北部医療センターに赴任、短期助っ人のはずがそのまま約11年勤務しました。その間、竹丘病院ならびに老健たけおかとは、地域医療連携室を介してなじみとなりました。

臨床医として心がけていることは「2.5人称の視点」(柳田邦男著「言葉の力、生きる力」)を忘れないことです。医師(3人称)として冷静で客観的な視点を失わず、しかし患者さん(1人称)やご家族(2人称)に半歩近づき寄り添う、そんな医師になりたいと願っています。

神経内科では、パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患、認知症、脳血管障害などを診療しています。いずれも社会の高齢化とともに増加している疾患です。有効な治療薬も増えてきてはいますが、治療が難しい疾患も少なくないため、経過とともに通院や在宅療養が難しくなる患者さんもいらっしゃいます。

どのような治療・療養の形を選ぶかは患者さん個々の問題として、地域の患者さんは、希望があれば最後まで地域の中で見ていく体制をつくることはとても重要であると考えています。

人と関わりたくて医師を志した原点に戻って、私がこの竹丘病院で何ができるかを皆さんと一緒に考えながら、働いていきたいと考えています。

どうかよろしく願いいたします。